

人と環境にやさしい道を、 最適・最短の工法で工事中です。

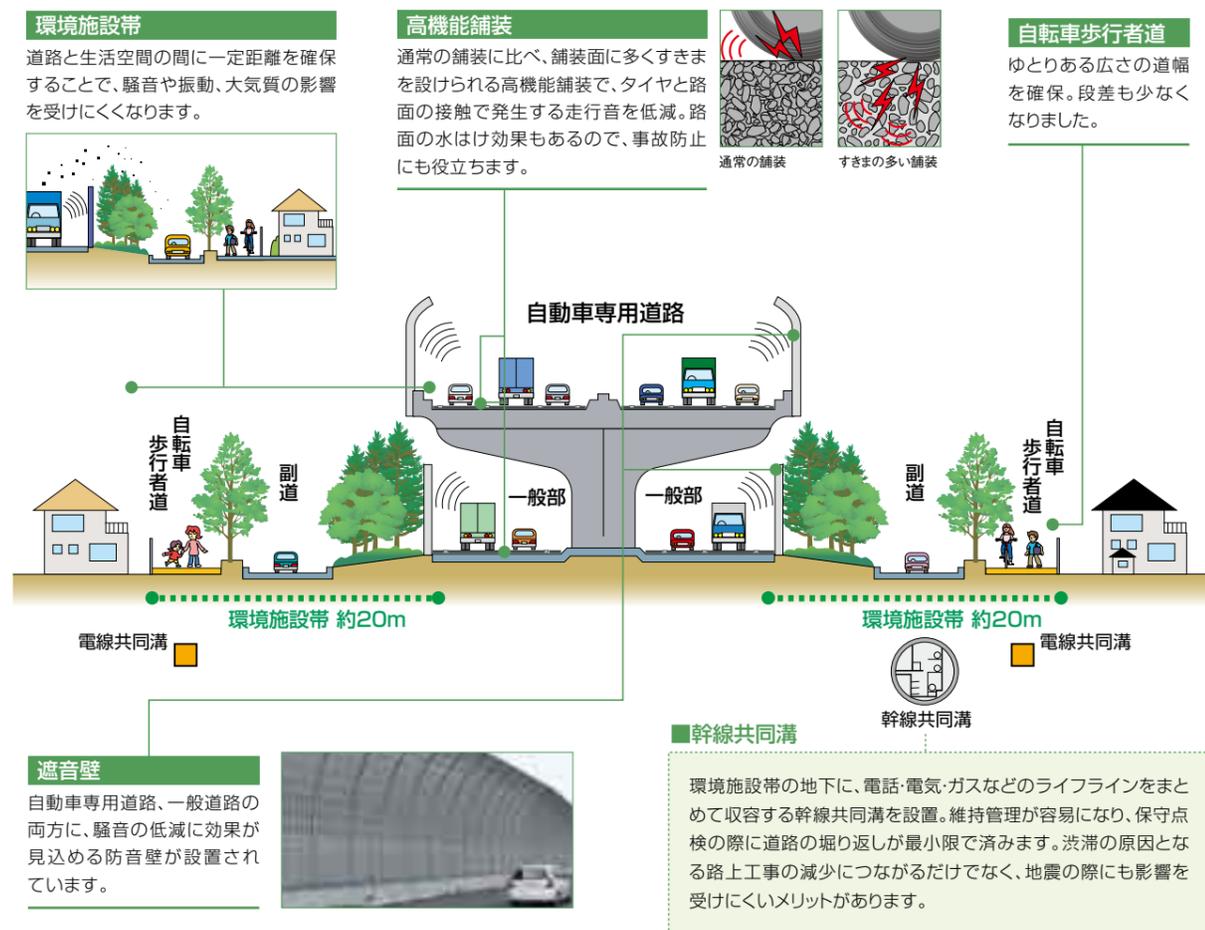


青山地区高架橋工事の桁架設状況(交野市青山地区)

「緑立つ道」として、いきどいた環境配慮設計

第二京阪道路には、「緑立つ道」の愛称が付けられています。その理由は、沿道の環境や景観に配慮し、豊かな緑あふれる設計となっているからです。具体的には、自動車専用道路の両脇に植栽帯、副道、自転車歩行者道からなる片側幅約20mの環境施設帯を設置し、コンクリートの

威圧感、粉塵の影響をやわらげる工夫が施されています。また、遮音壁のほかに車の走行音を低減する高機能舗装を採用するなど、周囲への騒音対策についても十分に配慮された設計となっています。



■門真JCT高架橋における工事の様子



大型トレーラーで架設場所まで運搬

近畿自動車道を通行止めて架設

区域ごとに、最適な工法で工期短縮・環境配慮を実現

第二京阪道路は工事を行う総延長が長いので、地盤状況、交通事情、用地の確保、地元との協議などは、各工事区域およびその区間ごとに異なります。そのため、すべてを同じ工法やスケジュールで進められるとは限らず、それぞれに最適の方法を追求し、その全工程は一元的に管理されています。

例えば、門真JCT高架橋の場合、近畿自動車道をまたいで工事を行わなければならないため、交通量の少ない深夜の時間帯において、一時通行止めを行い、施工しました。限られた時間内に工事を行うために、梁などに使用する巨大な鋼材については、工場で製作された各部位を

分割して大型トレーラーで現場に搬送。全国に20台しかない大型クレーンで迅速に架設が行われました。

また、大規模な高架橋工事(812mの連続橋の上下部工事)となった青山地区高架橋の場合は、高架下の盛土工事を同時期に進める必要があったため、工場で製作した分割された桁の一部を橋上で組み立ててレール上の台車に乗せ、前方の架設機の下まで運び橋桁を架設していく工法が採用されています。この工法により大幅な工期短縮を実現しただけでなく、高架橋下の作業スペースも十分確保でき、地元の方々の生活環境にも配慮した工事が進められています。

第二京阪道路の残り区間、枚方・門真間の工事が、現在急ピッチで進行中です。

平成22年3月(予定)の開通が待ち遠しいものです。

取材協力・資料提供：国土交通省 近畿地方整備局 浪速国道事務所



100万人の市民現場見学会 第二京阪道路

社団法人日本土木工業協会では、全国の土木の建設現場を広く一般市民に公開してご覧いただく「100万人の市民現場見学会」を行っています。

「100万人の市民現場見学会」では、建設現場を見ていただくとともに、「くらしを守る国づくり」という視点から、安全で安心な地域づくり、社会づくりに貢献している建設事業の理解を深めていただきたいと思います。

第二京阪道路の各建設現場でも平成18年より数多く実施しており、平成20年9月～21年8月の1年間で110回、延べ5,200人の方々に22年の全線開通に向け出来上がりつつある構造物を見学していただきました。

